

# 高等教育研究センター

Research Center for Higher Education

## Newsletter

No.007

2012.4

- GPA特集第5弾
- 平成24年度学内版GP採択結果
- 高等教育コンソーシアム信州  
第6回FDフォーラム開催報告
- スタッフからひとこと

信州大学 | 高等教育研究センター  
SHINSHU UNIVERSITY

### GPA特集第5弾

#### ●●●GPA制度と学習アドバイジング●●●

中央教育審議会答申『学士課程教育の構築に向けて』（平成20年）では、大学にGPA制度を国際的に互換性ある形で導入することを求めています。それは、GPAを卒業判定基準や退学勧告の判定基準として使うことを意味しますが、しかし、そうする場合、「アドバイザー制を導入するなど、きめ細かな履修指導や学習支援をあわせて行う」ことも合わせて求めています。このように、GPA制度は学習アドバイジングとセットで考える必要があります。そこで今回は、GPAとの関連から見た学習支援・アドバイジング活動について、アメリカでの州立大学での事例を見て、本学でどのような体制を取るのが現実的であるのかを考える機会にしていきたいと思えます。

#### アメリカにおける州立大学での学習アドバイジング

##### ■ポートランド州立大学 (Portland State University)

・新入生は全員、履修手続き前にオリエンテーションを受けなければなりません。それに加えて、一年生は全員、専攻を決めている学生は学科で、決めていない学生はアドバイジングセンター(the Undergraduate Advising and Support Center)で、それぞれ学習アドバイジング(academic advising)を受けなければなりません。

・教員であるアドバイザー(faculty advisor)、専門職であるアドバイザー(professional advisor)のいずれも、助言内容は次のものです。

個人としての目標の探求

職業・学業上の目標の探求(大学院や専門職学科への進学も含む)

個人としての目標、学業上の目標、職業に関する目標の3つの統合

授業の選択や履修計画

大学の方針と規則の理解

大学が持つリソースとサービスに関する知識とそこへの紹介

・大学の学習アドバイジングの目標は、学生が次を理解することを支援するところにあります。

卒業要件と大学の方針(the University's institutional policies)の理解

キャンパスの使えるリソースの理解

教室外での活動の価値の理解

学生側の責任と大学側の責任のバランスの理解

(以上は<http://www.pdx.edu/advising/>より)

##### ■クリーブランド州立大学 (Cleveland State University)

・ミッション

クリーブランド大学の説明助言室(Exploratory Advising Office)のミッションは、専攻や教育プログラムやキャリアパスを決めていない全ての学生が、学業を続け(academic persistence)、前進し、脱落せず(retention)、成功することを助けるところにあります。(後略)

・目標

説明助言室の目標は次のものです。

・学生が将来の専攻とキャリアパスを切り開いていくのを助けます

・授業選択の際の支援も含め、適切な学業計画を立てるのを支援します

・学業上の要件と大学の方針や諸手続きに関する正確な情報を学生に提供します

・目標に向かっての、学生の現在の進行状況を査定し評価します

・学生が、目標に到達する助けになるサービスを探り当て利用することができるよう助言します

・専攻を決めた学生には、学部の適切なアドバイジング機関にスムーズにまたタイミングよく学生が確実に移行できるようにします

(以上は<http://www.csuohio.edu/academic/advising/exploratory/mission.html>より)

#### 以上から学べること

上記から、またその他の文献から、アメリカでのアドバイジングをまとめるとおよそ次のようになるでしょう。

(1) 学部を決めていない学生のためのアドバイジング機関と、学部のアドバイジング機関がそれぞれ別にある

- (2) アドバイザーは専門職を配置している(専門職としてのアドバイザー、アドバイジング機関の評価項目と職能団体については次が詳しい:小貫有紀子(2005)、「アメリカ高等教育における学習支援プログラムの基準と評価システム」、『大学教育学会誌』27-2、pp.81-7)
- (3) 授業履修に関して学生はアドバイジングを受けることが求められるが、そこでは人生の目標から考えて授業選択をしていくという構えで助言が行われる
- (4) 大学の卒業要件、教育方針、大学が持っているリソース等の正確な知識を学生に提供する
- (5) 学生が今の自分の状況について理解するのを助け、それに対して、大学は何をしてくれるのか、と、学生が自分で何をしなければならないのか、を考えさせる
- アメリカと日本では国情が違いますので、学生のニーズも当然違います。それでも、ある程度の共通点はもちろんあるはずで、(1)から(5)は、必要があつてこういう形になっている、と考えるべきでしょう。

特に、「放っておいたら学生はドロップアウトする」という学生観が前提となっている、というところはおさえておくべきでしょう。

さて、信州大学はじめ国内の大学では、専門職としての学習アドバイザーは配置されていません。冒頭で触れたように、文部科学省はGPAは履修指導・学習支援の整備と同時並行で進めていくことを求めています。このインフラ上の違いはしっかり認識しておくべきです。その上で、信州大学では、専門職アドバイザーがない状態で(3)から(5)をどう進めていけばいいのかを考えていかなければならないでしょう。特にGPA導入という文脈では(5)が重要になりますが、それについては稿を改めて論じたいと思います。

(アメリカでの学習アドバイジング全般については、アップクラフト他(2007)『初年次教育ハンドブック:学生を「成功」に導くために』(丸善)の第6章を参考にしました。)

(文責:加藤鉦三)



## 平成24年度学内版GPヒアリングを行い、11件を採択しました

平成24年度学内版GP選考のためのヒアリング審査が3月1日(木)13時より全キャンパスへのSUNS配信による公開にて行われました。当日は書類選考を通過した12件の取組を対象として、10分のプレゼンテーション及び5分の質疑応答を行いました。各部署の申請者による熱意あふれる説明に対し、質疑応答では評価員から多くの質問が出されました。



松本キャンパス会場の様子→

### ▼平成24年度学内版GP採択取組一覧

プログラム名称	取組部局	取組担当者
分野横断型フィールド実践による人間力の向上	人文学部	花崎 美紀
教育カウンセリング課程における学校心理実習の充実に向けた取り組み	教育学部教育カウンセリング課程	上村 恵津子
大学初年次教育を中心とした基礎学力と専門知育成プログラム	教育学部	西 一夫
就業と関連づけた生物保全(環境保全)教育	理学部生物科学科	藤山 静雄
医学科3年次生を対象とした、夜勤帯を含む看護体験実習	医学部医学科	櫻井 晃洋
地域づくりを牽引する技術者育成教育-技術者の複眼的感性涵養のための「まち」なかキャンパス	工学部	土本 俊和
信州の環境を活かしたフィールド授業による人間力向上の試み	全学教育機構	村上 好成
自然環境診断マイスタープログラム	理工学系研究科	島野 光司
医学系研究科新独立専攻=疾患予防医科学系専攻キックオフイベント&セミナー	医学系研究科	新藤 隆行
グローバルなコミュニケーション力をもつ理系人材を育成する教育課程の構築	総合工学系研究科、理学部、工学部、農学部、繊維学部	平林 公男
大学院生を活用した学部学生のレポート作成能力の向上支援の取組	附属図書館	郷原 正好

## 高等教育コンソーシアム信州第6回FDフォーラムが開催されました



↑加藤鉦三教授

3月16日(金)、全学教育機構211番演習室において高等教育コンソーシアム信州「第6回FDフォーラム“遠隔授業”を始めよう!~2011年度の振り返りと来年度への準備~」が開催され、高等教育コンソーシアム信州教育部会長である本センターの加藤鉦三教授がファシリテーターを務めました。

県内各大学から、遠隔授業を担当した経験のある先生方とこれから初めて経験する先生方が参加し、遠隔授業をよりスムーズに行うための情報共有を行いました。初めて遠隔授業を担当する先生方からは不安な点が質問として出され、経験者の先生方からは授業で工夫している点について具体的な説明があり、今後の遠隔授業実施に向けた有意義なフォーラムとなりました。

### スタッフからひとこと

ツイッター=Twitterを始めました。日本語では、tweetを「つぶやく」と意識しているようです。確かにつぶやくと言うと責任がなさそうで、気楽に発言できるのですが、中には色々踏み込んで強くさえずっている発言もあるようです。さて、どういう発言をしていきましょう? (副センター長 矢部 正之)

